## 2002 年 4 月~2022 年 3 月の間に新規発症し治療が行われたホジキンリンパ腫 の方へ

## 「ホジキンリンパ腫およびその類縁疾患における 免疫関連遺伝子発現の臨床病理学的意義」

研究協力のお願い

琉球大学医学部保健学科病態検査医学講座(研究責任者:加留部謙之輔)では上記テーマ臨床研究を行っております。リンパ系悪性腫瘍(いわゆる悪性リンパ腫)は血液のがんの中でも最も頻度が高いものであり、沖縄県においても毎年多数の方が発症されています。リンパ系悪性腫瘍は何十もの細かい分類(亜型といいます)に分かれますが、その亜型によって、治りやすいものと治りにくいものがあります。その中でホジキンリンパ腫は他のリンパ腫と治療法も異なっており、その病態に注目が集まっています。また、ホジキンリンパ腫には診断がしばしば困難な類縁疾患が多くあり、それらの診断基準を明らかにすることも課題です。今回の研究では、ホジキンリンパ腫およびその類縁疾患をターゲットにして、腫瘍の生物学的特徴を明らかにする研究を行います。遺伝子異常などの腫瘍細胞の性質を理解することで、将来的にホジキンリンパ腫の患者さんの治療や診断に大きく貢献できると考えられます。今回東京医科歯科大学病院でホジキンリンパ腫の診断のため採取され、診断されたあとの冷凍検体をこの研究に生かそうと考えています。

この研究は、ホジキンリンパ腫およびその類縁疾患の患者さんから診断のために採取された検体の"残り"を活用します。このように、この研究のためだけに新たに組織を採取し直したり、外来にきてもらうなどはありませんので、患者さんの負担が増えることはありません。今回の研究では、主に免疫に関連する遺伝子に注目してホジキンリンパ腫およびその類縁疾患の病態を解析しますが、研究の過程で興味深い知見が得られた場合は、さらに別の視点から解析を追加する可能性があります。これを検体の二次利用と言いますが、この場合は、その二次利用を用いた研究計画を琉球大学の「人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査委員会」で改めて審議して、承認を受けた後に東京医科歯科大学にて既存試料の提供に関する届出を行い、進めます。

保存する検体には保存のための別の番号が付けられます。その検体番号と病院名、施設内 ID 番号、病型、性別とが連結可能な形で、管理台帳ファイルに管

理・保管されます。管理台帳ファイルは当院内でパスワードをかけたコンピューター内で保管され、第三者が患者さんを特定することはできません。この研究に参加された方々の年齢や性別、検査結果などは学会や論文で公表・使用されることがありますが、個人が特定されることはありません。また、この研究の記録が適切に残されていることなどを確認するために、当院の関係者が診療記録を見せていただき、内容の照合を行うことがあります。

本研究は琉球大学人を対象とする生命科学・医学系研究倫理審査委員会の承認を受けており、東京医科歯科大学では既存試料の提供に関する届出という所定の手続きを経て行われます。使用に同意されない場合は自由に使用の拒否ができますし、それによって診療の内容が影響することは一切ありません。

ご不明な点は、以下にお問い合わせください。

## 研究責任者

琉球大学医学部保健学科病熊檢查学講座

客員教授 加留部 謙之輔 (かるべ けんのすけ)

TEL: 098-895-3331 内線2652

東京医科歯科大学医歯学総合研究科人体病理学分野

講師 山本 浩平(やまもと こうへい)

TEL: 03-5803-5175

## 共同研究施設および協力施設とその責任者

(1)既存試料・情報の提供のみを行う施設:各施設における症例登録、検体提供を担当する。

社会医療法人敬愛会 中頭病院 血液腫瘍内科 林 正樹 社会医療法人かりゆし会 ハートライフ病院 血液内科 宮城 敬 地方独立行政法人 那覇市立病院 血液内科 内原潤之介 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 血液内科 大城 一郁 沖縄県立南部医療センター・こども医療センター 病理診断科. 仲里 巖 中里 哲郎 沖縄赤十字病院 内科 中村 栄男 名古屋大学医学部附属病院 病理診断科 名古屋大学医学部附属病院 病理診断科 高野 桂 奇美(Chi-Mei)病院病理診断科 Shih-Sung Chuang

(2) 共同研究施設: (1) に加え、免疫染色、臨床病理学的解析の一部を担当する。 長野県立信州医療センター および 信州大学医学部附属病院臨床検査部

	浅野	直子
信州大学医学部附属病院臨床検査部·病理診断科	上原	剛
愛知医科大学病院 病理診断科	佐藤	啓
愛知医科大学病院 病理診断科	高原	大志
東海大学 病理診断学講座	中村	直哉